

山国川奇譚 ～鶴市花傘鉾神事保存・伝承事業～



大分県 中津市
鶴市花傘鉾保存振興会



3 活動の成果や波及効果等

大祭にあたり、各地区においては花傘鉾の花づくりや、巡行路になっている地区の主要な箇所（道路）に、竹で作成した鳥居を設置するなど、地域ぐるみで取り組んでいます。また、1日目の巡行は8:30～22:00の長時間に及ぶため、各休憩時には食事や飲料水を提供するなど、地域が連携して祭りを支えています。こうした取組は、地域社会の希薄化が進んでいる状況下で、地域コミュニティの形成において大変貴重な活動と考えています。河川敷の草刈りでは、祭りを支えている各地区（19地区）から3～4名の住民や、祭り出展事業者約80名が参加し、それぞれ草刈り機具を持ち込み共同作業を行っています。利水地域の住民と出展事業者とが連携することで、にぎわいの場づくりに貢献しており、今後の地域活動への理解と、郷土愛の醸成に繋がる事を期待しています。



青田の中を行列する花傘鉾

喜びの声



受賞者
鶴市花傘鉾保存振興会
会長 長野 信一郎（写真：右）

コメント
ますます都市化していく社会環境の中で、こうした郷土芸能は一層貴重な存在となり、後世への伝承の必要性は、多くの人々にも認識していただいているところであります。この受賞を機に「山国川」という社会資本が、地域の観光振興や活性化にいかに関わっているか、私達の日常生活や地域にどのように関わっているかなど、今後もこの資源の重要性を広く周知し、郷土の伝統文化を後世に引き継いで参りたいと思います。

活動の内容
・各地区代表者・責任者会議 4回
・主会場及び周辺の草刈り清掃活動
・大祭の開催（2日間）

活動の経緯
昭和46年 保存振興会設立
平成21年 大分県無形民俗文化財に指定
平成29年 大分県知事表彰功労賞
平成30年 国民文化祭ミュージカル上演

所在地
大分県中津市大字高瀬（右岸河川敷）
活動主体及び連絡先
鶴市花傘鉾保存振興会
（大分県中津市殿町 1383-1）
対象となる社会資本
山国川
※管理者：国土交通省 山国川河川事務所



1 社会資本の概要

山国川は、その源を大分県中津市山国町英彦山に発し、同市山国町、耶馬溪町を流下し、周防灘に注ぐ幹川流路延長56km流域面積540km²の一級河川です。山国川上流部には景勝地「耶馬溪」を生かした観光産業が重要な位置を占めており、多くの観光客が訪れる大分県の代表的な観光地であります。また、



山国川上流に位置する耶馬溪ダム

川の水の流れを適正に管理していく“治水”と、川の水の効果的な利用を図っていく“利水”という2つの目的を持つ耶馬溪ダムが位置しています。そして山国川下流には鶴市花傘鉾神事の舞台である大井手堰があります。



山国川下流に位置する大井手堰

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平安朝の頃、山国川から取水した灌漑用水を中津市沖台平野に供給する施設として築造された井堰が、洪水により毎年決壊していました。これを防ぐために「鶴と市太郎母子」が人柱となり、その後、この母子の人柱の犠牲の上に新しい大井手堰が築造され、以来洪水にも決壊すること無く、神事が執り行われることとなりました。神事では、母子の霊を慰めるとともに、五穀豊穡を願う行事として、利水受益地

域（26地区）を色鮮やかに飾られた各地区の花傘鉾19台と神輿1基が、列をなして約30から40kmを巡航し、今日までの884年の永きに亘り歴史と伝統あるこの鶴市花傘鉾神事を伝えていきます。主会場である山国川河川敷の草刈り（約15,000m²）を大祭前に2回にわたり実施し、会場周辺の清掃美化活動及び安全施設や簡易トイレの設置等、河川美化・愛護に努めています。



頭首工に隣接する「鶴と市太郎」の慰霊碑



主会場となる山国川河川敷の草刈り



大井手土地改良区共催による小学4年生の校外学習

手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編